

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

事業所番号	2790300350		
法人名	特定非営利活動法人 ベルビー		
事業所名	グループホーム ポンビー		
所在地	寝屋川市木屋町6-16		
自己評価作成日	令和2年9月30日	評価結果市町村受理日	令和3年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和3年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様に明るく過ごして頂けるグループホームを目指している 家族様が面会に来られた時に、安心して頂けるように心がけている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大阪北部地区において福祉移送、介護保険および障がい福祉サービスを展開する特定NPO法人ベルビー(法人)のグループホーム(事業所)で開設3年目となる。最寄駅から徒歩15分の長い歩道橋で幹線道路を渡り切った静かな住宅地にあり、近隣には保育園、スーパーや公園もある。法人が運営する各事業所はユニークなネーミングで知られ、当事業所名「ポンビー」もフランス語で「良い暮らし」を意味するという。事業所は木造準耐火建築の2階建てながら、館内は諸設備を含め機能的に造られており、清潔に保たれ、絵画や利用者のクラフト(手工芸)が上品に飾られており、利用者の落ち着いた暮らしぶりが観られた。現在は、コロナ禍で家族との面会や外出、散歩が思う様に出来ないなか、管理者や職員の献身的なケアが感じられた。今後は、各種制度面の整備を一層進めることが期待される。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作成し、全スタッフと共有して実践につなげている。	家庭的な環境、利用者の個性、地域に信頼されふれあいの場を持てる施設をキーワードに3項目からなる事業所の理念を作成し、事業所玄関と各フロアに掲示し、またスタッフ連絡帳を介して、管理者と職員が理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園と交流を持ち、木屋冬まつりに参加している。	コロナ禍以前は隣接保育園の園児が来所し合唱の披露(と利用者のハーモニカ演奏のお返し)や保育園の発表会に招待されたりと相互の交流があった。民生委員や地域包括支援センターの誘いで、神社への初詣を兼ねて木屋冬まつりに出かけたりすることで地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて活かしてはいないが、認知症の方の気持ちになり、実践を通じて積み上げてきた行動をとっている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を重ねることにより、色々な意見を貰いサービス向上に活かしている	コロナ禍の現在は、市と相談し市の了解を得て、地域包括支援センターに資料をファックスで送付し(必要に応じ質問、問合せあり)、民生委員(欠席)、法人代表、管理者、計画作成担当者、職員及び利用者等内部関係者のみが参加して開催している。毎回議事録を作成し玄関に掲示している。	議事録については、館内への掲示だけでなく、出席者への配付及び利用者家族等に郵送する事で事業所の活動をより良く知ってもらう公表を行うことを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今回の外部評価を受けるにあたり、令和2年度中にもう一度受ける事を確認致しました	高齢福祉室、保護課や指導監査課と必要に応じ報連相(報告、連絡、相談)を行っているほか、市のホームページ「ケア倶楽部」から必要な情報を入手している。現在、グループホーム連絡会とは一時的に疎遠になっているというが、連絡会では営業のほか貴重な情報が得られることが多く連絡を密にすることをお勧めしたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1回の拘束会議を開催し、身体拘束をしないケアの共有をしている	身体拘束排除宣言が目立つよう館内に掲示している。委員会は3ヶ月に一度開催し議事録を整備している。身体拘束に関わる研修は、書面研修やビデオ研修で実施している。なお、指針文書、委員会議事録と研修記録は見やすくファイルしておくことをお勧めする。現在、尿バルーン抜去懸念のため必要な手続きを取り、一時的にミトン使用が一件ある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフ虐待防止に努めている 開業時から虐待の事例は起こっていない		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会を持ってはいないが、成年後見人を立てておられるご利用者はおられます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時までの事前ご相談を納得いくまで説明させて頂き契約につないでいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見や要望があれば家族会議の場を設けている	利用者の意見や要望は、日常の寄り添い時に傾聴に努めている。事業所独自のコンタクトレポート(アセスメントシートの拡大版で職員間で共有のほか家族への報告時にも利用)を作成し、ケアに反映している。一方、面会が禁止されている現状では、家族会も開催できず、家族等からの意見や要望は、努めて電話での連絡時に聞くように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議の場を設けて、週1回のミーティングを行っている	日常のケア現場の中で、また週1回のヘルパー・ミーティングにおいて、職員の意見や提案を聞く機会がある。また、法人での各事業所長会議(毎金曜日午後)において代表者に必要事項を報告している。職員の意見や提案は、可能な限り迅速に解決するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経験者であっても第一研修80h第二研修80hを受けてもらい、勤務状況を把握し向上心を持ってもらえるように昇給をしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者からスキルアップする様に研修の情報は常に伝えてもらい前進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	寝屋川市のグループホーム交流会に参加しサービス向上を目指している		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者が安心して暮らしていけるように、一日も早く信頼関係を築けるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入の段階で家族が金銭面の不安などの相談を受け、信頼関係を築く様に務めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応で支援の希望を聞き出し、支援の見極めをし、サービス利用の対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「明るいグループホーム」を目指している事をスタッフで共有し、同じ立場で関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が不穏になられて、電話かけて欲しいと仰る時には、遠慮なく電話を入れて共に支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が馴染みの人に会いたいとか、馴染みの場所に行きたいとかは仰る場面はないが、身内に会いたいと仰る時があるので家族に電話して対応している	かつては、お墓参り、法事や外食等は、家族が利用者を出掛けていたが、コロナ禍の現在は中断している。利用者が身内との連絡を取りたいと強い要望がある時には、職員が電話仲介の対応を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士仲良くして貰いたいです、ぶつかる利用者おられるので、全利用者が輪になる支援が必要である		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了の利用者はおられません		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が若いころの人生観や得意だった事を聞き出し、日頃のサービスに努めている	日常の寄り添いの中で、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めており、各自のコンタクトレポートに記録する事で職員や家族と共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスを開始する前は、どのようなサービスや暮らしをされていたかを全職員で把握し、少しでもポンビーに速くなれて頂くように努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集中するものを見つけ出し、時間を持って余さないように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全スタッフでミーティングを行い、どのようなサービスが必要か協議し、計画書を作成している	入居時に管理者や計画作成担当者が本人や家族等と面談し、また居宅ケアマネジャーや病院等の記録を参考に最初の計画書を作成している。その後、モニタリングやカンファレンス等を経て、6ヶ月後、1年後とに計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、経過記録、スタッフ連絡帳により介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人と家族の状況を把握しながら、支援に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が心身の力を発揮できるように、ボランティアの力を借りた取り組みをし、スタッフでの上下肢運動をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診支援は、隔週で往診に来てもらっている 歯科の往診やリハビリの往診も希望により来てもらっている	利用者、家族の希望で現在5名が従来のかかりつけ医内科の訪問診療を月2回受診している。他の利用者は話し合いの上、納得と同意の下で協力医療機関の内科月2回、神経科月1回の訪問診療を受診している。リハビリや歯科は希望者のみ訪問医療を受けている。入退院時、家族が止む無く同行できない時は職員が支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ボンビーに常勤看護師はいないが、必要に応じて契約後、訪問看護師に往診してもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された際、サマリーにより情報を提供し、退院の際はカンファレンスにより情報交換し受け入れている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針の同意書を貰い、終末期に向けたあり方についてスタッフ・家族と話し合い支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けた指針を説明し、家族の希望があり、医療上の問題がなければ可能な限り対応する方針である。本人や家族が入院を希望する場合は尊重する。これまで看取り寸前まで支援した事例はあるが、事業所での看取りはない。今後備えて重度化や看取りの研修はこれからである。	開設3年目で利用者の介護度も比較的落ち着いているが、突然の事態に対応できる介護の技術を身に付ける研修を優先課題であることを認識して、職員の教育や心構えの準備、体制作りが求められる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員に初期対応の訓練を定期的に行ってはいるが、急変時はかかりつけ医に電話を入れるか、管理者に電話を入れるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回の総合訓練を行い、災害時の意見交換会に参加し協力体制をきずいている。前回の総合訓練は水害を想定し2階へ避難をしました	防火管理者の指導の下、年2回の自主訓練を実施している。1階キッチンからの出火想定で、消火班、通報班、誘導班に分かれて避難訓練を実施している。職員はこの建物から絶対に火災を出さない覚悟で防災意識の向上に努めている。必要な防災設備はされているが、非常災害に際しての必要な具体的計画の策定までには至っていない。	何時来るか解らない非常災害(地震、火災、風水害)に際して関係機関への通報、連携体制の整備、昼夜の避難・救出訓練、研修などの実施や備蓄の準備など、必要な具体的体制作りが求められる。一度、消防署の協力も得て、専門的な指導・アドバイスを受けられる事を期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損なわないように一人ひとり人格を尊重するようにしている	利用者への呼称やケアの中で〇〇してあげる等の対応、トイレ支援での声掛け、口調が本人の誇りやプライバシーを傷つけないように確認し、日常の支援に気を配っている。職員は月間目標を立て「書面レポート」の提出や介護のビデオ研修受講など、確認と改善を事業所全体で取り組んでいる。個人情報などの保管取り扱いは書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の中には自分の思いを表現できない方もいらっしゃるので、スタッフから声掛けをして聞き出している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、昨夜眠れたか聞き出し昼夜逆転にならない程度に休んでもらう様にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者との話し合いにより、3か月に1回のペースで訪問美容に来てもらい、入浴時や起床時は洋服を選んで貰う様にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備などは一緒にしているが、調理はレカピターレからの献立を盛り付けている。食事中は皆様と一緒に召し上がっている	法人の配食サービス部門から、旬の食材を使った食事が提供され、必要に応じ事業所でムース食、ミキサー食、きざみ食やアレルギーにも対応し、ご飯と汁物を添え食事を提供している。食前には口腔体操、上下肢運動を軽く行っている。利用者は出来る範囲でテーブル拭き、下膳など行っている。時には手作りランチの日もあり、利用者の楽しみでもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に応じた食事量を提供し、体重の増減を観察しながらアレルギーのある利用者には、別メニューを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自身で口腔ケアのできる方は、居室にてされる方もおられますが、介助が必要な方は、フロアの洗面台ですべて頂いている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けを定期的に行い、トイレ誘導をしている。排泄の自立支援を行っているが、失禁や便失禁が多くなっている 弄便の方もおられる	排泄チェック表で利用者個々のパターンを把握している。トイレへの誘導は、さり気なく、一人ひとりにあった支援を行っている。布パンツ1名、夜間だけオムツが1名、24時間オムツ2名、その他はリハビリパンツを使用している。夜間の見回りは基本3時間ごとではあるが、身体機能に応じて、手を差し伸べて、出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給が少ない方には声掛けや介助での補給をしてもらい、慢性便秘症の方にはマグミットや下剤の処方をお願いしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は入浴表による支援であるが、利用者の希望に応じて翌日に入浴をもらったりの支援はしている 夜間時はスタッフの関係で控えてもらっている	浴室は、2方向介助の個浴槽と機械浴槽が設置され安全な入浴環境がある。週2回の午前中に入浴を楽しんでいる。入浴は同性介助を基本とし、お湯も都度入れ替えている。車いすの人は5名で2人介助の方もおられる。入浴拒否の方には時間変更したりスタッフを交代したりして無理強いせず、粘り強くタイミングを見計らい清潔に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの個室があるので、不眠や体調不良であれば休んでもらっている 夜間時は帰宅願望の方には安心して休んでもらう様に努力している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は管理者がし、処方箋を確認して把握し服薬してもらう様にしている 主治医に相談し、不必要な薬は外してもらい必要な薬は相談して処方してもらっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	麻雀やパチンコで気分転換をしてもらう利用者がおられ、他の方には玄関先のベンチで気分転換してもらっている 仕事がしたいと仰る方には家事手伝いしてもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブなど出かける事が多かったが、コロナウイルスにより自粛している	天気の良い日には、利用者の体調をみながらホーム周辺の散歩や近くのスーパーへ買い物に出かけたり、ドライブを兼ねて季節の移り変わりを感じるお花見、紅葉狩りに出かけていた。家族とお墓参り、外食を楽しむ機会もあったが、コロナ禍の自粛で玄関前の長椅子に座り、馴染みの唱歌などを歌ったりして外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方と、できない方がおられるので、できない方は預かっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話で話をしたいと仰る時があり、電話の取次ぎをさせて頂いている 手紙はお返事を出される時にポストに投函させて頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせるように日差しがきつい時は、カーテンをしめるなどの配慮をしている 視覚障害の方がおられ、キッチンの換気扇が水の音に聞こえるらしく、最小限にしている	玄関、廊下、リビングは明るく、ゆったりした雰囲気がある。キッチンと事務所が隣り合わせでリビングと対面にあり、見守りの良い造りとなっている。建物の随所の壁に絵画や思い出写真が飾られている。リビングにソファ2つが置かれて談笑の場となっている。24時間換気が行われ、清潔感があり快適で、心地よい環境である	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後の時間にソファに座り、皆さんで過ごせる居場所作りをしている ハーモニカを演奏される方と一緒に演奏し、皆さんで歌っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご愛用されていた物を、自由に持って来てもらっている ご自身が部屋を飾ったり出来る支援をしている	各居室には冷暖房、ベッド、寝具、防災カーテン、小整理タンス、鏡付き洗面台、クローゼット、ナースコールと復旧ボタンが設置されている。利用者は思い出の家族写真や飾り物、テレビなどを持ち込んでいる。壁にはお誕生日会で頂いた職員手作りのクラフト(手工芸)が飾られて、それぞれ自分の居室として寛げるよう工夫された空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部に3か所トイレがあるが、場所のわからない利用者が多く表示を大きくしているが案内をしている 出来ることはフロアーで手伝っていただいている		